

ロボットアイデアコンテスト アイデア一覧表(31~37)

No.	31	32	33	34	35	36	37
タイトル	カクテルロボット	溶岩移動ロボット	ゴミコレクション	ペースメーカーCAR	CEB(Cold Elephant Box)	ハイテク手押し車	雪かきルンバ
目的・狙い	画面操作でグラスをセットするだけでカクテルが楽しめる。業務用として、品質の安定、人件費削減が期待できる	火山調査に使用、人を危険にさらすことなく安全確保	人に代わってゴミを拾う	陸上競技における目標タイム実現支援ロボット。ライントレース技術を採用。イメージで記録を狙うより、このロボットが世界記録ペースでリードしてくれる方が目標意識が高まる。	食品腐敗を防ぐ	高齢者などの散歩、買い物をタブレット連動でナビ。また電動車いすの機能も	人に代わって除雪
ユニークさ 新規性・独創性	ネットを介してレシピダウンロード可能。音声認識で会話でき、注文を受ける、客の気分やどのようなものが飲みたいかを判別。	高温環境下で移動できる	ロボットらしさを払しょく、ゴミ認識カメラにキャラクターを採用	目標のラップタイム、ペース配分などを選手に合わせ、または世界記録に合わせてプログラミングできる。	赤外線による野菜等の鮮度確認機能あり	タブレット連動で持ち主認識。買い物かごなど収納機能十分。心拍数など健康状態把握可能。連動して119番連絡も。	充電式で自分で所定の場所に帰れる
社会的価値 市場性	バーテンダー補助、仮定でも手軽に	科学技術の発展に寄与	環境整備に寄与	オリンピックを意識。またランニングなどを含めて陸上競技を楽しむニーズは高い	食品がゴミになるのを防げる	高齢者事故防止	労力の軽減、削減のほかに除雪中の事故も防止できる
開発の難易 実現可能性	構造的には容易、音声認識など会話ソフトが重要	耐熱材料、真空断熱など耐熱構造を採用	ゴミの認識精度、回収の確からしさ、などが重要だが実現可能	既存技術で十分実現可能	耐寒性を付けていけば実現できているものを用いる。食品の識別が課題。	電動車いす技術の応用	雪かきした雪を一定の場所に飛ばす場合に、落下する場所の計算機能あり
環境への優しさ	複雑ではなく、耐久性は高く、環境負荷は小さい	セラミックス材料を使用、密閉冷却機構を採用	ソーラーパネル充電	ソーラーパネル充電	効率よく食材を使うことになるので冷蔵庫の詰込みによる冷蔵能力低下も防止できる	軽量ジュラルミン使用、太陽光充電。	充電式で排気無し
上記以外の アピール点	高品質のカクテルが提供できる、好みの分量指定も可能	(記載なし)	(特になし)	プログラミング、電子回路設計、機械加工などものづくりがすべて含まれている。	携帯と連携したお知らせ機能付き。お知らせしたのものを使ったレシピ表示機能など	ドローンを飛ばして上空からの危険情報も入手できる。	雪に埋もれているものも認識して自動回避。